

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース（※）の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校の実務や、研修（第1部課程等）の履修によって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

「慌ただしいが、立ち止まることのできる時間」。

マネジメントコース生としての自治大学校に赴任して3カ月。ここまでの日々を振り返ったときにこの一言が浮かんできました。

マネジメントコース生は、教務部又は研究部・教授室のいずれかに配属され、私は教務部に着任し、自治大学校で行われる研修課程の運営を行うこととなりました。

教務部では、マネジメントコース生1人当たり1つの研修課程を受け持つことになり、私は管理職公務員が対象となる第3部課程を担当しています。

講師の日程調整、研修生の入校に向けた準備、研修が始まってからの提出物の管理など、それまで派遣元自治体で経験することのなかった業務で、日々戸惑いの連続ですが、同じ境遇のマネジメントコース生の励ましや、非常勤職員の方々の助けもあり、7月初旬に無事研修課程が開講しました。

派遣元とは全くことなる仕事を経験することで、それまで見えてこなかった自分の「向き不向き」が少しずつ見えてきました。結果的に自分の仕事を「立ち止まって」振り返ることができています。

「職員側」として自治大学校に派遣されたことによって、校長や部長教授をはじめとする総務省職員の方々と機会を問わず気軽に話すことができます。研修課程の受講生は、講義や演習中など限られた機会に関わりを持つのに対して、マネジメントコース生は、日々の業務や、昼休憩の食堂などで真面目な話も他愛のない話もすることができ、非常にありがたい環境なのも特徴です。

また、私が担当する3部課程は、全国から83名の課長級以上相当（管理職）の方々が集まります。入寮パーティや研修生の方々が集まる談話室では、研修生の方々から管理職だからこそその貴重なお話をたくさん聞くことができました。

こういった機会がいただけることもマネジメントコース生だからこそだと思います。



（入寮パーティ後の談話室にて）

自治大学校のある立川市も、私にとって「立ち止まる時間」を支えてくれる大切な環境です。寄宿舍と職場が同じ敷地内にあるため通勤時間はほとんどなく、満員電車とは無縁の生活です。その一方で、立川駅周辺には商業施設や飲食店が充実しており、休日の過ごし方にも困りません。

個人的には、自治大学校の図書室に加えて駅前に本屋が3店舗もあることが推しポイントです。

ふと時間ができたときに本屋に立ち寄り、興味の赴くままに本を手取る。普段の慌ただしい業務の中ではなかなか持てなかったものです。

せっかく東京に来たので、念願だった趣味の格闘技観戦にも行くことができました。



(休日に観戦した格闘技大会の様子)

マネジメントコース生としての1年のうち、早くも4分の1が経過しました。振り返ると本当にあっという間で、最近では「1年もある」ではなく、「1年しかない」と感じるようになっていきます。

派遣が決まった当初は、仕事や生活への不安もありました。しかし実際に生活してみると、その不安以上に多くの学びや出会いがありました。

この1年は、普段の業務から少し距離を置き、自分自身を見つめ直し、これからの行政人生を考えることのできる貴重な時間です。私にとってマネジメントコースの1年とは、「慌ただしいが、立ち止まることのできる時間」です。

残りの9か月も、この貴重な「立ち止まる時間」を大切にしながら過ごしていきたいと思います。